

---

---

# 日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

---

---

Web 版 Vol. 7 (2015)

Look forward Angel now!

川島伸博

昨年度から事務局を担当している川島です。過去を振り返るほどの年齢ではないのですが、せつかくの機会ですので、まずは回想モード。考えてみると僕にとって、ミルトンの *Paradise Lost* との出会いは、故藤井治彦先生とアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』とともにやってきました。1995年4月に大学院に入った僕は、藤井先生の *Paradise Lost* 演習を受講。この演習は、毎回3人ずつ、各々約30行が割り当てられ、1回の授業で100行も進みません。しかし、担当者は、その割り当てられた30行に出てくる単語をすべてOEDで調べ、そこに *Paradise Lost* からの引用が上がっているかどうかを確認、引用箇所すべてをリストアップした表を作成して提出しなければなりません。今でこそパソコン版OEDで簡単に調べることができそうですが、当時は書籍版で一語一語丹念に調べねばならず、毎週担当の三人は研究室のOEDの前にはりつくようにして調べたものです。さらに担当者は、OEDで調べた語釈に基づき、日本語訳を作成、その上で音読を要求されました。音読には調べてきた努力がすべて反映されます。ですから音読を終えたときに、藤井先生が一言「よし」とおっしゃってくれたときの喜びは今も鮮明に覚えています。しかし、この演習は毎回90行くらいしか進みませんでしたので、*Paradise Lost* を読み終えるのに7年以上かかる大事業でした。言い換えると、その授業で *Paradise Lost* を最初から最後まで読み通すことができたのは藤井先生以外、誰一人いなかったのです。ちなみに僕が参加した年は10巻の途中から。「君たちには申し訳ないけどすでに墮落後です」——最初の授業で藤井先生が僕らに向けた言葉は、今思うと何か象徴めいて響きます。

そして改めて振り返ってみると僕が *Paradise Lost* を読み始めた1995年の10月、『新世紀エヴァンゲリオン』が放映を開始しているのです。英語名を *Neon Genesis EVANGELION* というこのアニメと、まさに新創世記たる *Paradise Lost* との間にアナロジーを感じたあたりから、僕は藤井先生の授業にますます熱中、そのおかげで授業とは別に独自で *Paradise Lost* を最初から読み直し、ミルトンの作品世界に入っていくことができたのでした——同じ物語が時代と場所を超えて解釈され、変奏されていく過程は、今も僕の中心的研究テーマの一つです。ところで、そのアニ

メで使徒 (Angels) と呼ばれる敵が襲来し、世界が危機にさらされるのが 2015 年、つまり今年度という設定なのです。僕が『エヴァ』と関連付けながら *Paradise Lost* を読み始めた 20 年前、まさか自分が日本ミルトン協会の事務局を担当させていただくことになるとは夢にも思いませんでした。ただ、ここで回想モードから予想モードに切り替え、翻って今から 20 年後の日本ミルトン協会のことに思いを馳せてみると、正直、あまり具体的な姿が見えてきません。現事務局の喫緊の仕事は、大天使ミカエルの力を借りてでも、2035 年、そしてそれ以後の日本ミルトン協会のヴィジョンを具現化していくことだと考えています。20 年後も、日本の学生たちがミルトンを読んでいるような未来を実現すべく、みなで盛り上げていきましょう。

## 日本ミルトン協会 第 11 回 研究会 報告

**日時** 2014 年 7 月 5 日 (土) 午後 3 時～午後 5 時

**場所** 神戸市外国語大学 (大学共用施設 UNITY)

**発表**

1. 金崎八重 : 「ミルトンの庭」
2. 江藤あさじ : 「万物が共生する『失樂園』の世界——Sin と Death の場合」  
(出席者 16 名)

## 日本ミルトン協会第 5 回大会および 2014 年度総会 報告

**日時** 2014 年 12 月 6 日 (土) 午前 10 時 15 分～午後 5 時 20 分

**場所** フェリス女学院大学緑園キャンパス

**発表**

1. 清滝仁志 : 詩人ミルトンにおける政治と人間

**ミニ講義**

1. 辻裕子 : ミルトンにおけるレトリックと詩

**シンポジウム : 「ミルトンと表象」**

1. 西川健誠 : Dislodging the Cross? “The Passion”と『失樂園』・『復樂園』における受難の扱い
2. 森道子 : 光の追求——ミルトンとレンブラント
3. 倉恒澄子 : ミルトンと音楽 : ハーモニーをめぐる
4. 那須敬 : ミルトン・内戦・オルガン

## 総会議事録

### 1. 活動報告

川島事務局長より 2013 年度の活動について報告があり、了承された。

### 2. 2013 年度会計報告および会計監査報告（金崎八重、箭川修、菅野智城）

金崎事務局委員から 2013 年度会計報告が報告され、箭川・菅野会計監査委員より監査の結果報告の通りで間違いなしとされた。総会出席の会員により了承された。（8 ページ参照。）

### 3. 2014 年度予算（金崎八重）

金崎事務局委員から 2014 年度予算が提案され、総会出席の会員により了承された。（8 ページ参照。）

### 4. 2015 年度行事予定について

下記の通り提案され、了承された。

第 12 回研究会：7 月 4 日 AP 東京八重洲通り

第 6 回大会および 総会：12 月 5 日 龍谷大学深草キャンパス

### 5. 口座開設に伴う規約改訂について

規約「付則」に、新たに「所在地」に関する事項を追加する改定案が提出され、承認された。（新規規約については 9-10 ページ参照。）

（出席者 27 名）

## 日本におけるミルトン研究文献目録（2014 年度）

新井明 「『楽園喪失』と離婚論—楽園脱出の原理—」 野呂有子（監修）『＜楽園＞の死と再生』 1-11

圓月勝博 「ミルトンと 17 世紀英詩」、「ミルトンの『失楽園』」イギリス文化事典編集委員会（編）『イギリス文化事典』丸善出版（2014.11）194-5, 212

大濱えり 「Miltonic Twain—『ハドレーバークを墮落させた男』におけるミルトンの人間観—」 野呂有子（監修）『＜楽園＞の死と再生』 134-150

桶田由衣 「A Masque presented at Ludlow Castle, 1634 における“chastity”と“charity”—Christian Doctrine における定義から—」野呂有子（監修）『＜楽園＞の死と再生』 54-66

小泉義男 『ミルトンとクロムウェル』山口書店（2013.4）

笹川渉 「「偉大な監督者」ヤングとミルトン」北見工業大学『人間科学研究』第 11 号（2015.3）27-43.

辻裕子 『ジョン・ミルトンの思想と現代』世界思想社（2014.11）

道家弘一郎 「ミルトンと内村鑑三—万人の救済と宇宙の完成—」『國學院雑誌』

115 卷 11 号 (2014.11) 120-131

富樫剛 「ジョン・ミルトン」他多数の項目 石塚久郎(編)『イギリス文学入門』  
三修社(2014.6) 76-7, et passim

富樫剛(編)『名誉革命とイギリス文学—新しい言説空間の誕生—』春風社(2014.8)

富樫剛 「『革命がおきたらおしまいだ』—マーヴェル、ミルトン、ドライデンが歌  
う武力と抵抗のイギリス十七世紀」 『名誉革命とイギリス文学』 113-162

野呂有子(監修) 『<楽園>の死と再生』 金星堂(2014.3)

野呂有子 「Jane Eyreにおける「楽園」脱出の原理—「出エジプト」の主題を中  
心として」 『<楽園>の死と再生』 285-305

野呂有子 “Gordon Campbell and Thomas N. Corns, *John Milton: Life, Work,  
and Thought.*” 野呂有子(編) *For the Better and Effective Writing of an  
English Essay* 「英語論文作成の手引き」金星堂(2015.2)

野呂有子 『詩篇翻訳から「楽園の喪失」へ—出エジプトの主題を中心として—』  
富山房インターナショナル(2015.2)

堀内直美 「サムソンの最後の行動—『闘士サムソン』試論—」  
『英文学思潮』第86巻(2013.3) 207-234

堀内直美 「『失楽園』における選択と墮落—アダムの精神発達をめぐって—」  
青山学院大学文学部『紀要』第56号(2015.3) 111-133

堀内直美 「イヴのアイデンティティ—『失楽園』における相互テクスト的分析  
—」 『テキスト研究』第11号(2015.3) 51-72

山田恵摩 「Milton と戦闘—*History of Britain Book II* を中心にして—」 野呂有  
子(監修)『<楽園>の死と再生』 89-100

## 事務局だより

### 2014年4月4日

---

事務局の引き継ぎ(神戸市外国語大学 西川健誠⇒龍谷大学 川島伸博)。

### 4月30日

---

新規口座開設(00990-5-3061777)。

### 7月5日

---

第11回研究会、第15回運営委員会(出席者8名)

運営委員会議事録は次の通り。

1. 2013年度決算および2014年度予算について

金崎委員より報告。会員数の減少に伴い、予算の会費欄を300,000円から  
250,000円へ変更。

## 2. 口座開設に伴う規約改正について

規約改正については総会で承認をとる必要があることが確認された。

⇒その際、規約の新旧対照表を作成し、改正部分がわかりやすいような資料を作成すること。また、今後事務局が変わるたびに規約を改正する必要がある点も確認された。

## 3. 新しい名簿について

名簿掲載承諾票はこの時点で 30 通の返信あり。新名簿はその承諾票に基づき、12 月 5 日までに事務局が作成することが決定された。配布方法については、まず大会の際に配布、その後、会費納入者に送付という形をとる。

## 4. 会費の引き下げについて

学生会費を 0 円にする、退官、退職された先生方の会費を 0 円にするなどの案が出たが、⇒会費については据え置きということで決定。

## 5. 十二月研究大会の研究発表について

辻先生と清滝先生にお願いすることが決まった。連絡役は桂山会長。

## 6. その他

(1) 来年度以降の例会で、研究発表にプラスする形で、「～を読む」といった形の院生啓発を目的とする読書会形式の発表を行う。

(2) 収入に対して支出が大きく上回る状況が続いていることについて、有意義なお金の使い道が議論された。院生に対するトラヴェル・グラント、奨励賞の設置などの案が出たが、決定には至らず、この件は、次回以降、引き続き審議。

## **12 月 6 日**

---

第 5 回大会。第 16 回運営委員会（出席者 7 名）。

運営委員会議事録は以下の通り

### 1. 2012 年度決算会計監査報告

会計監査委員により問題なしと確認された。

報告事項：

#### 1. 2013 年度会計報告

会計監査により問題なし、とされ、2014 年度予算と共に総会で承認された。

審議事項：

#### 1. 2015 年度活動予定について

研究会            7 月 4 日    東京駅前会場（会場予約は富樫氏が担当）

発表者   ：二人のうち一人は若手に依頼することが決定。

大会・総会   12 月 5 日    龍谷大学(深草キャンパス)

シンポジウムは箭川氏をコーディネーターとし、テーマは箭川氏に一任。

（パネリストにできるだけ外部の方を一人入れるという形で打診）。

⇒その後の交渉で今年度シンポのコーディネーターは富樫氏に決定。

2. 『会報』第6号巻頭言執筆者について

川島が担当する。

3. その他：若手支援策

剰余金の有効利用として若手支援策の具体案が協議された。下記のように規約を改正するよう、次回の総会（2015年12月5日）で提案する。

**7. 会計** (1) 会費

会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は 1,000 円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

(3) 若手支援

学生会員が研究発表を行う場合、1万円を上限に自宅あるいは在籍校から会場までの実費交通費を支給する。

## 短信

本協会会員で同志社女子大学名誉教授の辻裕子先生が2014年4月29日付で平成26年春の叙勲にて、瑞宝中綬章を受章されました。

## 訃報

本協会会員で愛知県立大学教授の加藤和敏先生が2014年3月1日に逝去されました。加藤先生は、日本ミルトン・センターの創設時からのメンバーで、1994年より長きにわたって委員をつとめてくださいました。先生のミルトンに関するご研究には、「ミルトンの『コーマス』は急進的か」、「人民主権論とミルトンの政治思想」、「『樂園喪失』とマーヴェル」、「ミルトンとヘンリー・ヴェイン—イギリス市民革命の中で—」などがございます。先生のMCJ・MAJへのご貢献に感謝しつつ、心より哀悼の意を表します。

## 訃報

本協会会員で鳥取大学元教授の吉村伸夫先生が、2014年5月15日に逝去されました。マーヴェル学者として著名な先生ですが、1978年から日本ミルトン・センターのメンバーで、1986年には「ミルトンとマーヴェル」という題目でご発表いただきました。長きにわたってMCJ・MAJの会員でいらっしゃった先生に感謝しつつ、心より哀悼の意を表します。

## 訃報

本協会のメンバーで、明治学院大学名誉教授の澁谷浩先生が、2014年5月25日に逝去されました。先生の代表的なご著書には、『ピューリタニズムの革命思想』（御茶の水書房、1978）、『近代思想史における内村鑑三 政治・民族・無教会論』（新地書房、1988）、『オリヴァー・クロムウェル 神の道具として生きる』（聖学院大学出版会、1996）ががございます。先生のMCJ・MAJへのご貢献に感謝しつつ、在りし日の先生を偲び、心より哀悼の意を表します。

## 訃報

本協会のメンバーで、一橋大学名誉教授の滝沢正彦先生が、2015年1月9日に逝去されました。先生の代表的なご著書には、『闘士サムソン注釈』（研究社出版、1996）、『神、男、そして女』（英宝社、1997）所収「『失樂園』の夫婦像——「人間」への成長としての原罪——」、『英文学の中の愛と自由：若き友への説き語り、「さよなら」を言う前に』（花伝社、共栄書房、2010）などがございます。先生のMCJ・MAJへのご貢献に感謝しつつ、在りし日の先生を偲び、心より哀悼の意を表します。

日本ミルトン協会 2013年度会計決算報告 および 2014年度予算案

自2013年4月1日

至2014年3月31日

	摘要	2013年度予算	2013年度決算	2014年度予算案
収入	会費	300,000	270,000	250,000
	前年度繰越金	2,156,643	2,156,643	2,368,818
	雑収入	0	362	0
	計	2,456,643	2,427,005	2,618,818
支出	会報関係費	70,000	31,312	70,000
	印刷費	0	0	0
	HP管理費	12,665	12,875	12,875
	会場費	30,000	14,000	30,000
	振込み関連費	500	0	500
	次年度繰越	2,343,478	2,368,818	2,505,443
	計	2,456,643	2,427,005	2,618,818

基金会計

ゆうちょ銀行	1,500,000
--------	-----------

上記の通り間違いありません。

2014年12月6日

会計 金崎 八重



会計監査

菅野 智城



竹川 修





# 日本ミルトン協会規約

1. 名称 本会は、日本ミルトン協会（The Milton Association of Japan）と称する。
2. 目的 本会は、日本ミルトン・センター（The Milton Center of Japan, 1975年7月18日－2008年3月31日）の事業と組織を継承し、ミルトン研究を促進することを目的とする。
3. 事業 以上の目的を達成するために、次の事業を行なう。
  - (1) 研究大会
  - (2) 研究会
  - (3) 広報活動
  - (4) その他
4. 組織 本会は、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。
5. 役員 本会に以下の役員を置く。役員を選出については付則に定める。

会長 1 名	事務局長 1 名
事務局委員 2 名	企画委員 6 名
ホームページ委員 2 名	会計監査委員 2 名
6. 機関
  - (1) 総会  
本協会の最高決議機関とする。議長は会長が務める。
  - (2) 運営委員会  
運営委員会は、本協会の運営に関する事項を審議する。委員長は会長が務める。運営委員会は、以下の役員によって構成する。

会長	事務局長	事務局委員
企画委員	ホームページ委員	
  - (3) 事務局  
事務局は、会計、機関誌の発行、その他の事務を担当する。
  - (4) 企画委員会  
企画委員会は、研究大会・研究会等の企画を行う。
  - (5) ホームページ委員会  
ホームページ委員会は、本協会のホームページの管理・運営にあたる。
  - (6) 顧問をおくことができる。
7. 会計
  - (1) 会費  
会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は

1,000 円とする。

(2) 会計監査

会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。

**8. 規約の改正** 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

**9. 設立年月日** 本会の設立年月日は 2008 年 4 月 1 日とする。

**10. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。**

**付則 役員を選出ならびに所在地**

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。
- (7) 本会の所在地は次のとおりとする。

〒612-8577 京都府京都市伏見区深草塚本町 67  
龍谷大学法学部 川島伸博研究室

2008 年 4 月 1 日

2012 年 4 月 1 日改正

2014 年 4 月 1 日改正

# 日本ミルトン協会 役員および委員

(2015年4月1日現在)

**顧問** 新井 明 聖学院大学

---

**会長** 桂山康司 京都大学

---

**事務局長** 川島伸博 龍谷大学

---

**事務局委員** 金崎八重 大阪府立大学工業高等専門学校

---

笹川 渉 北見工業大学

---

**企画委員** 圓月勝博 同志社大学

---

川崎和基 日本大学

---

小山 薫 同志社女子大学

---

富樫 剛 フェリス女学院大学

---

中山 理 麗澤大学

---

西川健誠 神戸市外国語大学

---

**ホームページ委員** 小林七実 (同志社大学)

---

笹川 渉 北見工業大学

---

**会計監査委員** 菅野智城 (法政大学)

---

筋川 修 東北学院大学

---

\* ( ) は非常勤講師

---

日本ミルトン協会 会報  
Newsletter of the Milton Association of Japan  
第 7 号

2015 年 4 月 1 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会  
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67  
龍谷大学法学部  
川島 伸博研究室  
振替番号00990-5-306177